

中日友好南京柔道館視察報告書

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻 2 年 朝比奈竜真

今回、12月26日～30日に中国の南京にて行われた柔道指導に橋本敏明先生と同じ大学院生である荘司君と参加させて頂きました。目的としては、青島に続き開設された中日友好南京柔道館の現状及び指導内容の視察であります。私は2009年の8月に青島友好柔道館を訪問しているため、中国では2度目の柔道指導になります。また、恐縮ながら中国男女の日本でいう「ジュニア～ナショナルレベルの選手」の練習に参加し、技術指導もさせて頂きました。簡単ではありますが報告させて頂きます。



中日友好南京柔道館の現状

中日友好南京柔道館は、江蘇省体育学校の女子柔道場を利用し活動していました。指導責任者は元中国 100 kg ナショナル選手である常東氏です。彼は北京オリンピックに向けて、中国ナショナルメンバーが東海大学で長期合宿を行っていた時からの友人でもあります。

現在は約 60 名前後の生徒が柔道の稽古を行っていました。柔道経験者は数名で、後の全員は初心者です。開設されて約半年ですが、全員が楽しそうに柔道を行っていました。初心者の稽古内容は体を十分に動かしてから、受身と打ち込みです。子どもたちの打ち込みをみると、本当に形のきれいな打ち込みを行っていて驚きました。常東氏は、怪我をしない・させないこと、2つ組んできれいな技をかける日本的な柔道の指導を心掛けていると言っていました。また、日本で柔道指導の経験を積んだ常東氏は、ただ柔道を強くさせるだけではなく、柔道の教育的思想も子どもたちに指導しています。礼の大切さや、あいさつ等を厳しく話していて、柔道の本質を教えていたことに本当に感動しました。今後、中日友好南京柔道館が日本との架け橋になるように活躍を期待しています。

中国選手の特徴について

今回は男女「ジュニア～ナショナルレベルの選手」の稽古にも計4回参加させて頂きました。稽古を通して選手にある傾向がみられたので、報告させて頂きます。

中国の女子柔道選手は、日本のライバルともいえるほど世界大会やオリンピック等で活躍しています。私が稽古を通して感じたことは、中国女子選手は前後の動きが大半だという点です。打ち込みや乱取をみても、掛ける技は同じであり一本背負投・大外刈・大内刈・払巻込をかける選手が多くみられました。また、背負投は釣手を巻く背負投をかけている選手が少なく、中国女子柔道の特徴だと感じました。講習会では後ろ回り捌きの説明と、斜めに入る背負投を披露し、良い交流が行えたと思います。

男子は女子よりは顕著な特徴はみられませんでした。巴投をかける選手が少なかったため横巴投と女子同様に、斜めに入る背負投を講習会で披露しました。中には何度も質問に来る選手がいたり、みた技をすぐにできてしまう勘の良い選手が何名か見受けられました。世界レベルの大会では中国男子の活躍は少ないが、今後経験を積めば活躍できそうな選手がいて、今後は楽しみだと感じました。



まとめ

観光では中山陵や城壁といった、中国の文化や歴史にも触れることができました。また、今回の研修を通して、元中国男子柔道チーム監督の劉先生を始め、通訳の兎澤さん、常東等、たくさんの人たちにお世話になりました。今回の研修で一番感じたことは、柔道は日中平和のために大きな力になるということです。常東とは更に友情が深まり、今後彼らが日本に来た時には少しでも力になりたいと思っています。今回の研修は、日本にいたら体験することのできない大変貴重なものです。私は指導者を目指しているので、柔道の伝道師として役立てていきたいと考えています。最後になりましたが、このような貴重な体験をさせてくれたみなさん・柔道教育ソリダリティーに感謝したいと思います。ありがとうございました。